

ここが問題！リニア新幹線

第97号 2022年10月7日

リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会 web-asao.jp/hp/linear

10月17日（月）午前10時15分～

ストップ・リニア！訴訟第24回口頭弁論の傍聴を！
リニア新幹線川崎市内の工事で天野共同代表の証人尋問
当日午前9時30分東京地裁前に集合して下さい



（進めなくなった北品川非常口の掘削機）

今、リニア新幹線の建設工事は、岐阜県や長野県、愛知県内で非常口と本トンネルを結ぶトンネルで崩落事故が相次ぎ、岐阜県や長野県では非常口やトンネル工事残土の処分先が決まらないことがあって難航しています。JR東海が目指す2027年の開業は大幅に遅れることが明らかです。そして、首都圏と中京圏のリニア大深度地下の「調査掘進」も、東京・北品川非常口からのシールドマシン（掘削機）が目標の6分の1の50メートルを掘っただけで前に進めず、春日井の坂下西工区で

はわずか40センチ進んだところで掘進は中断されています。北品川非常口のシールドマシン停止について、8月9日のJR東海の調査報告では、掘削機最前部の切羽に設けられている気泡材の注入パイプの中央部にある1本に気泡材が混じった土（ズリ）が付着したためということです。

地下70メートルで起きたシールドマシンの不具合を直すためには、前方の地表から地下深くまで立坑を掘り、そこから修理しなければなりません。事故現場はJR東海の所有地であり立坑掘削は可能ですが、住宅地の大深度地下で同様の事態が起きた場合は立坑を掘ることは出来ません。

<来年4月の判決前の重要な原告側の証人尋問>

ストップ・リニア！訴訟は9月12日に東京地裁裁判官によるリニア山梨実験線被害の現地見分が行われ、審問も研究者2人、原告8人の証人尋問が行われるという最終局面を迎えます。来年4月に予定されている判決を原告側に有利なものにするために、東京、神奈川を中心とする原告・サポーターが法廷の傍聴席を満席にすることが重要です。皆さんの傍聴参加をお願いします。

<17日の証人尋問出廷者>

午前中 小泉武栄氏（東京学芸大学名誉教授）

地理学者。南アルプスの地質構造中心に、地下を貫くリニア新幹線工事の問題点を指摘する。丹那トンネル工事による異常出水などについても地質構造から原因を説明する。

午後① 松島信幸氏（理学博士、地質学者）

複雑な南アルプスの地質の褶曲隆起の実態。帯水層も多く。大トンネルを掘ることは水風船に穴を開けるようなものと説く。

② 天野捷一氏（リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会共同代表、原告）

川崎市内の説明会の推移と内容、喘息患者の増加、トンネルと導水隧道の近接交差等。

- ★ リニア工事中止の声は沿線各地で高まっています。
- ★ 東京地裁は工事認可取り消しの判決を！
- ★ 東京高裁は原告の訴えを軽視した中間判決の徹底審理を！

国交大臣のリニア工事実施計画（その1）の認可取り消しを求めリニア沿線を中心に738名の原告が2016年5月20日東京地裁に提訴したストップ・リニア！6年を経過しました。訴訟は途中、工事実施計画（その2）が認可されたため、その取り消しを求め67人の原告が2019年3月13日東京地裁に提訴しました。二件の裁判は合併審査として審理が行われてきました。一審を担当していた古田孝夫裁判長は原告適格を有するかどうかの中間判決を行うとして、2020年12月1日、532人の原告適格を認めない判決を強行しました。沿線や非常口、工事車両の走行ルート周辺に限り原告適格を認め、立ち木トラスト・土地トラストの参加者、南アルプスの自然保護やリニアの安全性を問い原告になった人たちの原告適格を認めない不当な判決でした。532人のうち167人は中間判決の差し戻しを求めて東京高裁に提訴しています。

<今後のストップ・リニア！訴訟の予定>

- 2022年10月17日 ストップ・リニア訴訟第24回口頭弁論（研究者ら3人の証言）
- 11月7日 // 第25回口頭弁論（原告7人の証言）
- 11月17日 中間判決控訴審第2回口頭弁論（原告側の意見陳述）
- 2023年2月3日 ストップ・リニア！訴訟最終弁論
- 4月上旬 裁判長がこの時期に判決を出す意向表明

<これまでのリニア関連、大深度関連訴訟の経過>

- 2014年3月28日 国交大臣が東京外環道大深度地下使用認可
その後約千人が国交省に取り消しを求め不服審査請求
- 8月26日 JR東海が国交大臣にリニア新幹線工事嫉視計画（その1）認可申請
- 10月17日 リニア工事実施計画（その1）認可
その後5048人が認可取り消し求め不服審査申し立て
- 2016年5月20日 リニア新幹線工事認可取消求め738人の原告が提訴（東京地裁）
- 2017年9月25日 JR東海がリニア工事実施計画（その2）の認可を申請
- 12月18日 東京外環道大深度地下使用認可無効確認請求で沿線住民提訴
- 2018年3月2日 リニア工事実施計画（その2）認可
- 3月20日 JR東海が国交大臣にリニア新幹線大深度地下使用認可を申請
- 5月29日 リニア工事実施計画認可（その2）取消を求め486人が国交省
に審査請求
- 7月8日 リニアまんが冊子の発行山梨県内の原告7人が甲府地裁に提訴
- 10月17日 リニア新幹線大深度地下使用認可
- 2019年1月10日 リニア大深度地下使用認可取消求め480人が国交省に審査を申請
- 3月13日 リニア新幹線工事実施計画（その2）認可取消提訴、原告は67名
- 5月8日 南アルプス市のリニア沿線住民が市内のリニア工事の差し止めを求め甲府地裁に提訴。被告はJR東海
- 6月18日 山梨まんが訴訟、甲府地裁が原告の訴え退ける判決
- 6月24日 // 原告側が東京高裁に控訴、のちに最高裁不当判決
- 2020年10月30日 JR東海の見解工事の差し止め求め107人が静岡地裁に提訴
- 12月1日 東京地裁でリニア中間判決。532人の原告適格認めず。控訴
- 2021年7月19日 田園調布住民24人がリニア大深度工事の差し止めを求め提訴

東京・神奈川連絡会リニア新幹線中止を訴え～熱心に耳を傾ける参加者 ごえん楽市2022開催、65市民団体が出展やパフォーマンスで交流



市民団体のパネルがぎっしり



リニアの説明を聞く参加者

10月1日中原市民館で2年ぶりに65の新団体が参加してごえん楽市が開かれ、多くの川崎市民が展示を見て、舞台のパフォーマンスを楽しみました。東京・神奈川連絡会は市民館2階の多目的ホールに設置されたパネル展示に参加し、市内のリニアルート、JR東海による工事の現況、大深度工事の危険やリニア開業による市民の交通便益の低下など多くの問題点を写真や数字で紹介しました。

昨年のごえん楽市は新型コロナウイルスの感染拡大を受けて中止されており、開催は2年ぶりとなりました。午前中の入場者の出足は多くはありませんでしたが、午後に入ると参加者は増え続け、私たちのパネルを見てパンフレットを受け取る方も多くなりました。この日、東京・神奈川連絡会の天野共同代表と山本マチ子さんが、10人ほどの方にリニアの問題点を詳しく説明し意見を交換しました。

市民団体が展示したパネルは10月30日まで、中原市民館1階ロビーで見ることができます。

10/23 第1回 歩いてチェック！リニアルートに参加しよう！

川崎市内のリニアルートは中原区等々力―宮前区梶ヶ谷―宮前区犬蔵―麻生区東百合ヶ丘―麻生区片平の16.3キロの大深度トンネルです。JR東海が掘削工事は大幅に遅れています。また、大深度工事による崩落事故が東京外環道で起きています。市民の目と足で川崎市内のどのような市街の地下にリニアのトンネルを掘るのかを歩いて見分してみたいと思います。

多くの方々の参加をお願いします。

集合 10月23日(日) 午前11時 かわさき市民ミュージアム入口前

経路 等々力非常口→宮内小学校→富士通川崎工場→JR武蔵中原操車場→太陽幼稚園

宣伝 リニアパンフをポスティング、午後1時過ぎから南武線武蔵新城前でアピール



建設中の等々力非常口



多摩川下にリニアトンネル

参加希望者は天野、山本、矢沢まで連絡して下さい
(電話は次ページ右下に)

「調査掘進ストップはJR東海が工事を進める能力を持っていないことの証明」 三木原告団長が田園調布リニア工事差止め訴訟第6回口頭弁論で意見陳述～10月4日



報告集会で三木一彦原告団長

10月4日午前、東京地裁で田園調布リニア工事差止め訴訟の第5回口頭弁論が行われ、原告団代表の三木一彦さんが、リニア大深度を知って市民団体「リニアから住環境を守る田園調布住民の会」を結成し、リニアの工事中止の活動に立ち上がった経緯を意見陳述という形で述べました。

そして、地下深い工事は地上に影響がないという大深度法は廃止すべきだが、今回北品川非常口からの調査掘進でわずか50メートルでシールドマシンが止まってしまい、前方に掘り進めなくなったことは、「事業を進める十分な意志と能力を有する」という事業者の資格を規定した大深度法16条にも反していると指摘しました。

三木さんはまたドイツのメディアの取材を受け、リニア事業の強引な進め方を説明すると記者からは、「このような事業が住民との話し合いもなく、強引に進めることはドイツはもちろん先進国では考えられないことだ」という発言があったことも紹介しました。

この後、調査掘進のいい加減さについて記した準備書面の要旨を代理人が説明しました。

午後1時から衆議院第二議員会館で報告集會が開かれ、東京・神奈川連絡会から、三枝、山本（マ）、伊藤（清）、天野の4人が裁判の傍聴と報告集會に参加し、天野共同代表と川村リニア訴訟原告団長が連帯の挨拶をしました。

9月24日、登戸駅でリニア街頭宣伝



東京・神奈川連絡会は9月24日午後、南武線登戸駅デッキで恒例の街頭宣伝を行い、会員4人がリニアパンフを配布し、マイクでリニア問題をアピールしました。

デッキに張り巡らされた「リニアは環境破壊」「川崎市民の水道水が危ない」などの赤や黄の横断幕は極めて印象力が強く、往来する市民も横断幕に目をやっていました。

9月14日、外環道第16回口頭弁論



衆院第一議員会館で報告集會

東京外環道の工事認可取消確認訴訟は9月14日東京地裁で第16回口頭弁論があり、原告の大塚康高さんが意見陳述を行いました。大塚さんは調布市の陥没事故とNEXCO 東日本の住民への不誠実な対応、大深度法による工事の不当性を訴えました。

ここが問題！リニア新幹線 NEWS NO.97

発行：リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会

天野捷一（中原・高津）090-3910-8173

山本太三雄（宮前）090-8775-1879

矢沢美也（麻生・多摩）090-6108-6568